

事業評価書（事後評価）要旨

○ 政策評価の対象とした政策

京都御所等における見学学習プログラムの提供（事業評価）

○ 政策の目的

児童・生徒・学生（以下、「児童等」という。）を対象とした京都御所等を題材（教材）とする学習プログラム（施設見学を含む。）を提供し、児童等の皇室施設・文化への理解の向上を図る。

○ 政策評価の結果の概要

（必要性）

学習プログラムの実施件数等は、平成29年度においては8件565名、平成30年度においては5件315名と多数の参加があったことから、学習プログラムへの需要が高いものであるとすることができる。

（有効性）

参加した児童等アンケート結果によると、皇室施設・皇室文化への理解については、「とても深まった」、「深まった」という肯定的な回答が85.4%となっていることを始め、いずれの項目においても見学学習プログラムへの肯定的な回答が8割を超えた。

また、教師・保護者も、皇室施設・皇室文化への理解については、「とても深まったと思う」、「深まったと思う」という肯定的な回答が97.5%（教師・保護者分設問4参照）となっていることを始め、いずれの項目においても見学学習プログラムへの肯定的な回答が8割を超えた。

また、学識経験者からも、皇室が継承してきた伝統文化の理解・促進にきわめて有意義である等の評価を得ているところである。

（効率性）

本事業は外部委託等を行うことなく、当庁職員のみで行っているものであり、人件費及び材料費以外の経費をかけることなく実施している。

また、広報についても、京都市教育委員会等への通知のみで多くの参加の応募があり、費用をかけずに十分な成果を上げている。

（今後の課題）

アンケート結果において、参観時間が長いと感じる児童等が21.6%確認され、この点について学識経験者から、児童の興味や自発的探勝行動を許容・誘発するようなプログラムを検討してはどうかとの意見をいただいたことから、これらを踏まえ、配付する資料の改善や参加型方式の参観を取り入れる等の検討を行う。

また、参加者の大半が小学生であることから、今後は、京都市教育委員会を通じ、中学生、高校生、大学生の参加者が増加するよう、周知・広報を行っていききたい。

加えて、今後も多くの参加者を募ることができるよう、飽きさせないためのプログラムに再構築するとともに、周知・広報については、宮内庁ホームページでも参加者を募集するといった工夫を図っていききたい。